

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月27日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22530515

研究課題名（和文）構築主義的な質的調査法の標準化と多面的開発のための共同研究

研究課題名（英文）A Joint Study for a Standardization and Multi-focal Developments of Constructionist Qualitative Research Methods

研究代表者

中河 伸俊 (NAKAGAWA NOBUTOSHI)

関西大学・総合情報学部・教授

研究者番号：70164142

研究成果の概要（和文）：

本研究の成果の第一は、3年間にわたり100名を超える多数の研究者を集めて行った研究会合を通じて、構築主義的アプローチの先端的な調査技法と知見の共有化を進めたことである。第二の成果は、それらの研究会合での議論をふまえながら、構築主義の現時点での方法的課題とそれに対する解答をかなり網羅的に盛りこみ、構築主義的研究の現時点の水準を示す論集『方法としての構築主義』の編集作業をし、刊行準備を整えたことである。第三の成果は、研究分担者それぞれが、個々の研究テーマについて調査や資料収集、理論的研究を行ったことである。

研究成果の概要（英文）：

The achievements of our joint study are three-fold. First, in the course of consecutive study meetings in a three-year period that involved more than 100 scholars, we successfully shared many techniques of and insights on constructionist researches, which would lie scattered without reports and discussions at those meetings. Second, based on those reports and discussions, we tracked down main methodological issues of constructionist researches at present, and collaboratively edited a collection of essays named *Constructionism as Methods*, that shows those issues and possible answers to them by presenting a sort of models studies (the book will be out in September, 2013). Third, getting informed from and motivated by these joint activities, members of our study have individually published papers and books that present empirical or theoretical works in the vein of constructionist inquiry.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：社会構築主義、質的調査法、言説分析、レトリック論、社会問題

### 1. 研究開始当初の背景

構築主義的な質的研究は、国内においても一定の歴史を持ち実践者も増えてきたが、これまで比較的相互連携が薄い形で平行して行われてきた。本研究プロジェクトは、こうした各種の構築主義的な質的調査の技法と方法論を、総合・標準化してその利用可能性を高め、質的調査法の一環としてさらに確立していくために立ち上げたものである。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、多面的に展開してきた構築主義的アプローチの先端的な調査技法と知見を共有化すること、また、その利用可能性を高めるためリーディングスを編纂する準備を整えることである。具体的には、分担者・協力者他による継続的な研究会を組織するとともに、分担者の個人研究を推進しそれを調査方法整備の共同作業へとフィードバックする。

### 3. 研究の方法

まず、以下のような形で研究組織を立ち上げた。連携研究者の樫田美雄、田間泰子、佐藤哲彦に加えて、研究協力者らに関西・関東の2グループに分け、それぞれが全国レベルの研究会・シンポジウムと地区内でのワークショップを行った。関西地区では全体を統括する中河の下に事務局を置き、地区コーディネーターを工藤が担当した。一方、関東では、赤川が地区のコーディネーターを担当し、山本・苫米地および研究協力者らと連携して研究活動を進めた。なお、構築主義的な質的研究の方法論的整備という観点から、研究会等の活動に係る組織系統とは別に、この間各種の構築主義的なアプローチの方法論の比較検討とクリティークをしてきた中河が統括役を務め、赤川は言説分析と歴史社会学を担当、山本は犯罪社会学と計量研究の再評価を担当、苫米地は家族社会学と教育社会学を担当、工藤は社会問題への構築主義アプローチとその応用の方法論を担当した。さらに、連携研究者・研究協力者らによって、エスノメソドロジー／会話分析、ジェンダー／セクシュアリティの構築主義的研究、レトリック論、歴史社会的な言説史など、広義の構築主義的な質的調査研究のかかなりの部分がカバーされた。

以上の役割分担を前提にして、毎年度、関東で2回、関西で1回の全国レベルの研究会を開催し、また、関東および関西で複数回の地区内の研究会を開き、共同研究を進展させた。

### 4. 研究成果

本研究の成果の第一は、3年間にわたり、

100名を超える多数の研究者を集めて行った研究会合（全国レベルのもの、および研究分担者や研究連携者が各地で行ったエリアレベルのもの）を通じて、構築主義的アプローチの先端的な調査技法と知見の共有化を進めたことである。

全国レベルの研究会合のテーマを挙げると、2010年度は(1)「構築主義を再構築する：質的リサーチ法としてのSCの定着を目指して」(2010年8月、於東京大学)、(2)「構築主義の再構築と排除/包摂問題」(2010年12月、於東京大学)、(3)「アーヴィング・ゴフマンの相互行為秩序研究と構築主義」(2011年2月、於大阪府立大学)、2011年度は(1)「概念の用法とその歴史」(2011年8月、於東京大学)、(2)「ドロシー・スミスの『制度のエスノグラフィー』の社会探究法としての射程」(2011年12月、於東京大学)、(3)「ジェンダーとセクシュアリティ」(2012年2月、於大阪府立大学)、2012年度は(1)仁平典宏著『「ボランティア」の誕生と終焉』合評セッション(2012年8月、於東京大学)、(2)「教育社会学における構築主義アプローチ」(2012年12月、於立教大学)、(3)「エスニシティの構築」(2013年2月、於京都大学)である。各分野の中堅・新進による構築主義的な経験的研究の成果の提示と、さらには突っ込んだ方法論上の討論が交わされた。そのほか、富山や大阪、京都などでローカルレベルの構築主義関連の研究会を開催した。

また、第二の成果は、それらの研究会合での議論をふまえながら、構築主義の現時点での方法的課題とそれに対する解答をかなり網羅的に盛りこみ、構築主義的研究の現時点の水準を示す論集『方法としての構築主義』(本年度9月刊の予定)の編集作業をし、刊行準備を整えたことである。この準備にあたっては、2011年度には構成と執筆者を確定して継続的に編集会合を持ち、3年間にわたって実施してきた共同研究活動の成果である調査技法のモデルとなる事例研究や方法論上の進展に資する新たな知見についての論考を、参画者のうち12名の寄稿を受けて取りまとめた。

第三の成果は、研究分担者それぞれが、個々の研究テーマについて調査や資料収集、理論的研究を行ったことである。赤川、中河、山本は米国の学会での報告や論文・著書(共著)の執筆公刊を行ったほか、山本は国会議事録や各種データベース等に基づいて、約10年間の犯罪不安の推移の見取り図をつくった。工藤と苫米地はそれぞれ、昨年度に引き続き、ひきこもり・不登校問題および喫煙問題についてのフィールドワークと資料収集を進めた。また、中河は応用哲学学会の大会のSSK(構築主義的な科学研究)をテーマに

したワークショップ(於京都大学 9月24日)で、方法論をめぐるコメントリーを行った。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ① 赤川学、『『造化機論』の千葉繁』、『東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要』、査読無、第26号、2013、77-92
- ② 山本功、『平成24年の青少年問題』、財団法人青少年問題研究会『青少年問題』、査読無、60巻1号、2013、38-45
- ③ 山本功、『2000年代における犯罪不安の推移』、『警察政策』、査読無、14、2012、89-104
- ④ 苫米地伸、『禁煙をめぐる』、公益財団法人たばこ総合研究センター『TASC MONTHLY』、査読無、No.444、2012、22-28
- ⑤ 山本功、『翻訳『社会現象としての犯罪』(Ferdinand Tonnies, 1895, "Das Verbrechen als soziale Erscheinung", Archiv für soziale Gesetzgebung und Statistik 8: 329-344)とその解題』、『淑徳大学研究紀要』、査読無、45、2011、397-418
- ⑥ 中河伸俊、『ドロシー・スミスの制度のエスノグラフィーと臨床社会学』、『現代の社会病理』、査読有、25、2010、41-55
- ⑦ 苫米地伸、『喫煙と健康に関する医学的文献と社会的な関心との変遷に関する社会学的研究』、『財団法人たばこ総合研究センター 助成研究報告』、査読無、2010、130-145

[学会発表] (計6件)

- ① Manabu Akagawa、Is a shrinking population really a social problem?、Society for the Study of Social Problems: 2011 Annual Meeting : Session 94、2011.8.21、Harrah's Las Vegas Hotel
- ② 山本功、テンニースの犯罪社会学、日本犯罪社会学会第37回大会、2010年10月3日、国土館大学
- ③ 中河伸俊、社会学における社会構成(構築)主義-ポストモダンの波が引いた後に何が残るか、日本科学哲学会第43回大会、2010年11月28日、大阪市立大学
- ④ 後藤弘子・村山拓・山本功、少年院における矯正教育の構造に関する研究(2)、日本犯罪社会学会第37回大会、2010年10月2日、国土館大学
- ⑤ 苫米地伸、喫煙と健康に関する医学的文献と社会的な関心との変遷に関する社会

学的研究、平成21年度TASC助成研究報告会、2010年7月26日、東海大学校友会館

- ⑥ Akagawa, Manabu: "Can a Foucauldian analysis on sexualities be applied to non-Western societies?" International Sociological Association, World Congress of Sociology, 17th, RC-16-18. (20100716). Univ of Gothenberg, Sweden

[図書] (計8件)

- ① 中河伸俊・赤川学編、勁草書房、『方法としての構築主義』、2013、ページ未定
- ② 中河伸俊・岡田光弘・是永論・小宮友根訳、ナカニシヤ出版、デイヴィッド・フランシス、スティーヴン・ヘスター著『エスノメソドロジーへの招待』(David Francis and Stephen Hester, An Invitation to Ethnomethodology, Sage, 2004の翻訳)、2013、ページ未定
- ③ 工藤宏司、世界思想社、『『ひきこもり』と家族の関係史-言説とその変容』、古賀正義・石川良子編『ひきこもりと家族の社会学(仮題)』、2013、ページ未定
- ④ 赤川学、勁草書房、『構築主義を再構築する』、米村千代・数土直紀編『社会学を問う』、2012、236
- ⑤ 赤川学、弘文堂、『社会問題の社会学』、2012、137
- ⑥ 赤川学、東京大学出版会、『誰がどんな少子化対策を支持するのか』、武川正吾ほか編『格差社会の福祉と意識』、2012、57-76
- ⑦ 赤川学、東京大学出版会、『人口減少時代の地域づくり』、盛山和夫他編『公共社会学2 少子高齢化社会の公共性』、2012、235-252
- ⑧ 中河伸俊、世界思想社、『構築主義』、井上俊・伊藤公雄編『社会学ベーシックス別巻 社会学的思考』、2011、288

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

中河 伸俊 (NAKAGAWA NOBUTOSHI)  
関西大学・総合情報学部・教授  
研究者番号: 70164142

##### (2) 研究分担者

赤川学 (AKAGAWA MANABU)  
東京大学・人文社会系研究科・准教授  
研究者番号: 10273062  
苫米地伸 (TOMABECHI SHIN)  
東京学芸大学・教育学部・准教授  
研究者番号: 80466911  
山本功 (YAMAMOTO ISAO)  
淑徳大学・社会学部・准教授  
研究者番号: 10337694

工藤 宏司 (KUDO KOUJI)  
大阪府立大学・人間社会学部・講師  
研究者番号：20295736

(3)連携研究者

榎田 美雄 (KASHIDA YOSHIO)  
徳島大学・ソシオ・アーツ・アンド・サイエ  
ンス研究部・准教授  
研究者番号：10282295

佐藤 哲彦 (SATO AKIHIKO)  
関西学院大学・社会学部・教授  
研究者番号：20295116

田間 泰子 (TAMA YASUKO)  
大阪府立大学・人間社会学部・教授  
研究者番号：00222125